

2024 年度（令和 6 年度）幼稚園評価自己評価表

最終更新日 2025 年（令和 7 年）3 月 21 日

園番 27 福山市立 緑丘 幼稚園

1 幼稚園教育目標

心豊かにともに伸びる“たくましいこども”の育成

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

- ①一人一人が自信をもって自己表現ができる子を育てる幼稚園
- ②直接体験を大切にした感動ある保育実践ができる幼稚園
- ③保護者や地域の人々との繋がりを大切にする幼稚園

3 目指す幼児像

- ①やさしい子（友達の気持ちを受け止められる子）
- ②考える子（自分の思いを伝え、友達と一緒に考えられる子）
- ③粘り強い子（自己肯定感をもち、目標をもって取り組める子）

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

本園は、市中心部から離れた東部に位置している。商業施設や住宅が増え、人口の流入が激しい地域である。昨年度より 3 年保育がスタートし、保護者・地域の期待は高く、校区外からの入園園児も多い。しかし、年々働く保護者が増加し、園児数は激減する一方である。近年コロナ禍の中で社会状況が一変し、こども同士、保護者同士のつながりがますます希薄になっている。また、こどもの遊びや文化も大きく変容し、ゲーム・タブレットやスマホ等 ICT 機器を使って遊んでいる子が増加し、選択肢の幅が大きくなり、共通の話題が持てなくなりつつある。

保護者の価値観も多様化し、こども主体をはき違え、こどもに気を遣いながら接する保護者や理解や生活習慣等 支援が必要な保護者がいる。また、周りの人とあまり交わろうとせず、自分で考える子育てをする保護者も増えている。

こども達は、療育に並行通園する等 支援を要する園児が多い。昨年度コロナ禍が明け、友達や異年齢の関わりの中で、友達大好き・遊ぶこと大好きなこども達が増えてきた。しかし、思い思いに好きな遊びを見つけて楽しんでいるが、人と関わる経験や色々な生活経験の不足、こだわりなどから、不安感が強く、初めてのことにチャレンジしない子や自分の思いや困り感を表出することが苦手な子も多い。

このような実態から、一人一人が安心して園生活を楽しみ、集団の一員として自信をもって行動し、友達と力を合わせることの大切さや楽しさ、達成感や満足感を感じ取ることができるよう、人との関わりや自然とのふれあいなどリアルで豊かな感動体験活動を通して、教育目標に迫っていきたい。

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重点目標	設定理由
一人一人が自己表現し、自信をもって活動する幼児 ～ 「伝えたい」気持ちを育む保育内容や環境を通して ～	<p>昨年度 3 年保育がスタートした。同年齢や異年齢との触れ合いや交流を通して、「～がやってみたい」「～ができるようになりたい」とやりたい気持ちを引き出すための援助や環境について、保育参観やエピソード研修、週 1 回の研修を行ってきた。計画通りにはいかなかったが、研修を通してこども理解や環境構成について、共通意識を図ることができた。こども達は自己充実を通して、自己表出し、意欲的に活動する姿が見られるようになってきた。しかし、やりたいことは言うが、「～だから～してほしい」と伝えたり、自分の思いを相手に分かりやすく伝えたりすることには課題が残った。</p> <p>本年度も、こどもの姿から思いをしっかり読み取り、やりたい気持ちを引き出すために、一人一人に応じた評価をするとともに、集団として互いに学び合い、成長を促すような援助や環境構成を大切にする。そして、「～したい」「～したら、～なった。次は～したい」等 相手に伝えたいと思えるような感動体験やリアル体験等を充実していく。また、遊びの姿から保育内容や環境を工夫することで、幼児一人一人が自己表現し、自信を高めていくと考え、研修主題を設定した。</p>

※【評価】 Aー達成した Bーほぼ達成した Cーじゅうぶん達成していない Dー達成していない

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価	評価結果
					○＝反省や課題 ◎＝改善のための方策
生きる力の育成	安心して自分の思いを表現できる力をつける	身近な人に自分から関わろうとしている	・保育者はこどもの思いを受け止め、共感したり関わろうとする姿を認めたりする	A	○一人一人のこどもの成長を願い、育ちを見とりながら、こどもの「やりたい」思いを受け止め、認め、できる方法を一緒に考えるようにした。こども発信で動く姿につながった。身近な友達からクラスを越えて一緒に遊べるこども達が増えてきた。 ○こどもの思いを聞き、自分で考えられるような声かけを心掛けた。また、思いをくみ取って代弁したり、思いを出せた時は褒めたりすることで安心して気持ちを表現できるよう心がけた。 ◎今後もこどもの思いを受け止め、自分を表出できる関係を築いていく。
			・「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」「いいよ」が言えた時は褒める	B	○幼稚園のこどもにとって安心できる場所になり、自信をつけてくると挨拶ができるようになった子もいた。こどもの顔を見ながら挨拶をしてきた。 ○保育者が待つとこどもから挨拶する姿は多く見られるが、率先して自分から挨拶する子はまだ少ない。 ◎幼稚園が安心できる場であるようこれからもしっかり関係づくりを築いたり様々な場面で自信をつけさせたりする。
	身の周りの環境に自分から進んで関わる力をつける	学びが次の遊びの学びへとつながるよう、実態に応じてマネジメントする	・振り返りの場を大切にし、こどもの声に耳を傾け、困ったことややりたいこと等思いを読み取る	B	○「楽しかった」「またしたい」という気持ちをベースに遊びの振り返りをしてきた。遊びの振り返りをする日と幼児の育ちを全体へ広げる振り返りをする日など工夫してマネジメントした。 ○振り返りを通して自分の思いを発信することが増えてきたが、友達同士の話し合いでは相手の思いや考えを伝えることに気持ちが向き、言えたら友達の話をしっかり聞いていない姿もあった。 ◎こどもの発言する姿や思いを認め、共感したりしていくことをこれからも大切にしていける。聞く人が分かるよう、分かりやすく話す援助をする。 ◎自分から関わろうとすることが難しい子もいるので、周りの子や集団の力も借りるよう援助する。
教師の役割	伝えたい気持ちを育む保育内容や環境を工夫する	保育の質を高める研修を行い、実践を進める	・援助・環境構成のあり方について、視点をもとに職員間で意見交流する。(月案1回、エピソード研修年2回以上、幼小連携接続研修) ・幼児実態をもとにねらいに迫るためにカリキュラムを柔軟に見直し実践する	C	○月案検討や日常的な会話の中で保育について語り合い、環境をつくってきた。しかし、エピソード研修は十分できておらず、カリキュラムの見直しに十分時間がとれなかった。 ○幼小連携接続研修については実践発表を職員に提案したり検討したり還元したりしてきた。また、個についての話し合いや講師を招いての研修を定期的に行うことができた。 ◎保育内容を工夫し余裕を持って活動できるよう、内容を工夫したり他職員との連携を密にとったりしていく。 ◎ウェルキッズの写真や各クラスの環境・見学等を活用して互いの学びを高める。
	個々の実態に応じた指導・援助・環境を工夫する	個々の成長・発達を理解し、職員で共通理解する	・個・集団の変容と援助について個別指導経過の交流・検討を実施する ・関係機関や相談機関と丁寧に連携し、学んだことを実践に活かす	B	○個別の指導計画を中心に個の実態と援助のあり方について検討してきた。関係機関や相談機関と連携し、学びに活かし、職員で共通理解することができた。 ○支援を要するこどもへの対応について、日々、職員間で話をしているが、一人一人に応じた対応が十分にできにくい時もあった。 ◎集団の中で個に応じた対応を考え、その個の満足感につながる活動になるようにしていく。 ◎個について丁寧に見取り、研修に積極的に参加し、こども理解について学ぶ。
信頼される幼稚園	幼稚園教育の理解を広める	アンケートで「便りや手紙、対話等でこどもの様子や成長がわかる」と肯定的評価する保護者を85%以上にする	・保護者に手紙・便り・対話等でこどもの様子や育ちを知らせる ・園長だより・園だより・クラスだよりをそれぞれの役割・ニーズを踏まえて発行し、保護者や地域に発信する	B	○アンケートで保護者の肯定的評価が97.7%（「とても」76.8%）である。 ○ウェルキッズの導入により、カラー写真でこどもの様子をタイムリーに配信できるようになった。その結果、保護者にも高評価を得ている。 ○降園前にこども達の様子を伝えることで親子の会話が広がったという意見もよく聞かれる。 ◎ウェルキッズの活用で保護者との対話が減少することが危惧されるので、意識して関係構築をしていくことが大切である
	子育てについて気軽に相談できる幼稚園にする	アンケートで「安心して幼稚園に預けられる」と肯定的評価する保護者を85%以上にする	・職員から保護者に積極的に声かけをし、信頼関係を築き、子育てについて共に考える機会をもつ ・学級懇談等を工夫し、保護者同士の関係をつくる	A	○アンケート結果、肯定的評価100%（「とても」90.7%）、「幼稚園の保育は、こどもの興味・関心を大切にしている」のアンケート結果は肯定的評価100%（「とても」93.0%）である。こども目線に沿った保育内容で保護者からも信頼されている。 ○日常の様子をタブレットの写真を用いてエピソードを交えて伝え、こども達の育ちや学びについて知らせるようにした。 ○学級懇談会の工夫により参加者が増え、共感したり励まし合ったりして、保護者同士がつながってきた。 ◎今後も個と集団での懇談を工夫し、信頼される園をめざす。

